

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：32618

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00426

研究課題名(和文) イギリスの女子大生小説と少女雑誌 教育とキャリア形成に関する学際的研究

研究課題名(英文) British Women's University Fiction and Girls' Magazines: An Interdisciplinary Study on Education and Career

研究代表者

志渡岡 理恵 (Shidooka, Rie)

実践女子大学・文学部・教授

研究者番号：80597526

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、19世紀後半から20世紀前半のイギリスにおいて、主に10代の少女たちに大きな影響を及ぼした女子大生小説と少女雑誌を研究対象とし、女子の高等教育に関する言説が女性のキャリア形成にどのように関与したのかを明らかにすることを試みた。その結果、当時の少女たちがこれらの媒体から得ていた情報を突きとめ、それらの情報から彼女らが形成したと考えられる高等教育やキャリアに対するイメージをあぶり出し、統計からは見えてこない少女たちのメンタリティの機微やそれに関連する社会背景を詳らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的・社会的意義は以下の3つである。ミードの女子大生小説において女子の高等教育の意義が専門職への道を切り拓くことばかりでなく、教養教育と社交(ネットワーク構築)にも見出されていたことを新たに証明できた。新設の女子教育機関が、長きにわたりイギリスの紳士教育を担ってきたパブリック・スクールやオックスブリッジをモデルにしつつ、女子学生たちの状況に応じて独自の方針を織り交せて調整を行っていたことを詳らかにできた。実践女子大学の学祖・下田歌子が欧米の女子教育視察から得た知見を記した『泰西婦女風俗』を分析することにより、19世紀末の日英の女子教育の影響関係を解明できた。

研究成果の概要(英文)： This study examined how the discourse on women's higher education and occupations in women's university fiction and girls' magazines influenced women's career building in the second half of the nineteenth century and the first half of the twentieth century in Britain. The articles concerning women's colleges such as Newnham and Girton College at Cambridge provided detailed information about college life. Women's university fiction revealed the essence of college life, that is, the mixture of study and play, the pleasant social life, esprit de corps, and so on. The articles concerning employment and profession concretely detailed various occupations, and women's university fiction described how girls chose their careers. These literary products reflected that an increasing number of girls were getting jobs and beginning to live their own lives.

研究分野：イギリス文化

キーワード：イギリス 女子教育 女性のキャリア形成 女性誌 女子大生小説 ジェンダー 少女文化 日英関係

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、これまで行ってきたイギリスの女子教育と少女文化についての研究をもとに着想した。報告者は、平成 24 年度から 25 年度にかけて、「20 世紀イギリスの「新しい少女」 女学校文化とガールガイド文化」というテーマで科研費の助成(挑戦的萌芽研究)を受け、研究に着手した。この研究課題では、女子の中等教育機関とガールガイドという青少年育成機関が、20 世紀イギリス社会の新しい少女像の構築にどのように関与したのかを探った。続いて、応募者は、平成 26 年度から 28 年度にかけて、「グローバル社会における女性のキャリア形成とネットワーク構築 文学研究の視座から」というテーマで再び科研費の助成(挑戦的萌芽研究)を受け、研究を進めた。この研究課題では、女子教育改革が行われる前と後のイギリスの女性のキャリア形成の変化についてリサーチを行った。その中で特に注目したのは、宗教団体のネットワークを利用して社会貢献のための活動をグローバルに展開した女性と、キッチン・メイドという階級社会では最下層に近い立場から料理人にまで登りつめ、成人教育を受けてベストセラー作家になった女性のライフ・ライティングである。

(2) 今回の研究は、高等教育を受けたイギリスの女性たちのキャリア形成を、女子大生小説や少女雑誌というこれまで看過されてきた文学作品の分析を通して詳らかにし、高等教育が女性の未来を切り拓く可能性について考察を深めたいという思いから着想に至った。平成 27 年度にケンブリッジ大学英文学科の客員研究員(Visiting Fellow)として学寮のひとつウルフソン・カレッジに 1 年間滞在し、最古の女子学寮ニューナム・カレッジを訪問したことも、この研究を進める後押しとなった。

(3) イギリスでは、19 世紀後半のエミリー・ディヴィスらによる女子教育改革を契機に、女性の職業進出が徐々に進んでいった。それに伴い、女性の生(life)を恋愛・結婚以外の側面に焦点を当てて語る可能性が広がった。とりわけ女子の学校小説は、目新しさも手伝い、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて大流行した。それまでは、中産階級以上の少女たちは、女性の家庭教師や両親から家庭で教育される、あるいは小規模の女子寄宿学校で音楽やダンスなどを教えられるのが一般的だった。その状況を大きく変えたのが女子の中等・高等教育の始まりである。少女たちは、「家庭」という私的空間を出て、「学校」という公的空間で、多数の同世代の学友たちと多くの時間を共有するようになった。新たに設立された女子の中等教育機関の中で、特に上層中産階級の少女たちが通う寄宿制の女子パブリックスクールは、多くの少女たちの憧れの的となった。それに大きく寄与したのが「女学校小説」である。この新ジャンルで絶大な人気を誇ったアンジェラ・ブラジルは、長編約 50 冊に加え、おびただしい数の短編を遺しており、その影響力の大きさがうかがえる。しかし、少女小説を文学的価値が低いと軽視する傾向が長く続いたせいで、代表的作家アンジェラ・ブラジルでさえ、国内外を問わず、本格的な研究はいまだなされていない。また、女子の高等教育は、当時さまざまなメディアでその是非が議論され、世間の注目を集めるとともに、女子大生を主人公に据えた女子大生小説も数多く出版された。しかし、女子大生小説の研究も近年始まったばかりである。現時点では、網羅的なリストすらまだ作成されていない。現在は、女子大生小説の全体像を把握しようとする試みが少しずつ進められている段階である。このように、文学研究の分野では、女子の学校小説の研究は萌芽の状況だが、歴史学の分野では、女子教育改革と女性の社会進出は、女性史の重要な一局面として、多くの研究者たちにより多角的に分析されてきた。たとえば、国外ではジェイン・ロビンソン、国内では香川せつ子による論考が代表的である。これらの歴史学における研究成果が示しているのは、新たな教育の機会を手にした当時の多くの女性たちが、それぞれの置かれた状況の中で、自分に最適な道とは何かを自らに問いかけ、自分に必要なものが提供される場を探し、紆余曲折を経ながら独自のキャリアを形成していったという事実である。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、19 世紀後半から 20 世紀前半のイギリスにおいて、主に 10 代の少女たちに大きな影響を及ぼした女子大生小説と少女雑誌を研究対象とし、女子の高等教育に関する言説が女性のキャリア形成にどのように関与したのかを明らかにすることを目的とするものである。女子教育改革と女性の社会進出についての歴史学における研究成果を踏まえながら、女子の高等教育が女性の未来を切り拓いてきた軌跡と、今後切り拓いていく可能性を、文学研究の視座から検討する。そして、文学研究と歴史学の研究成果を接続することにより、女性の高等教育およびキャリア形成の問題と展望を、より総合的に考察し、新たな知見を提供することを目指す。

(2) 女子の学校小説では、家を離れ、学校という公的空間で、同世代の多数の少女達が生活を共にする姿が描かれる。学校というコミュニティには独自のルールがあり、ルールを守るように促す規律がある。そこでは、学業やスポーツの成績ばかりでなく、何かに秀でていること(=個性)が重んじられる。少女達は、自分の「個性」を探求し、それを磨いて周囲に認められること

で、コミュニティにおける居場所を確保していく。つまり、家庭という私的空間において娘、妻、母親としての役割を果たすことのみを要請されていた女性たちが、社会においてそれ以外の役割を果たすための準備をすることを期待されるようになったのである。本研究の目的は、19世紀後半に始まった女子の高等教育が女性の社会進出にどのような影響を及ぼしたのか(あるいは今後及ぼす可能性をもつのか)を、女子大生小説と少女雑誌を主な資料として用いながら、文学研究の視座から解明することである。

3. 研究の方法

本研究は、これまで看過されてきた資料を用い、女性の高等教育とキャリア形成の問題を文学的視座から考察する。分析の対象として用いるのは、当時の少女たちのキャリア形成への意識を探るうえで極めて重要な文献であるにもかかわらず、これまで「ヤングアダルト向けの大衆文学」と軽視される傾向にあった女子大生小説と少女雑誌である。当時の少女たちに絶大な影響力を持っていたこれらの文献を丁寧に読み解くことにより、統計からは見えてこない彼女たちのメンタリティの機微や、それを構築した具体的な社会背景を、精緻なかたちで明らかにする。さらに、上記の作業を学際的な見地から行い、女子教育改革と女性の社会進出に関する歴史学の研究成果を、女子の高等教育・キャリア形成についての少女雑誌の記事および女子大生小説の分析と接続することで、女性の高等教育・キャリア形成の問題と展望をより総合的に考察する。

4. 研究成果

(1) 女性のキャリア形成に関する歴史学の先行研究を踏まえ、L・Tミードらの女子大生小説と少女雑誌における高等教育機関の情報、卒業後のキャリアのための助言、知的な領域で活躍する女性の紹介などの記事を分析した結果、ミードが関与したこれらの文化的媒体は、女子の高等教育および社会進出を後押しする言説に溢れており、そこには、ミードや記事を執筆した多くの女性たちが次世代の少女たちに向けた期待と支援の想いが強く表れているということが明らかになった。特に、2019年度刊行の論文「*A Sweet Girl Graduate* (1891)における教養教育の意義」で、当時大きな影響力を持ちながらまだ研究の進んでいないミードの女子大生小説において、女子の高等教育の意義が、専門職への道を切り拓くことばかりでなく、教養教育と社交(ネットワーク構築)にも見出されていた点を詳らかにできたのは意義深い。これは、従来の研究にはなかった視点である。

(2) 2020年度に行った研究発表「自立自営への道 英国の少女小説・雑誌における女子教育をめぐる議論」では、女子教育改革により新たに設立された女子教育機関が、長きにわたりイギリスの「紳士教育」を担ってきたパブリック・スクールおよびオックスブリッジをモデルにしつつ、それぞれの教育機関や女子学生たちの状況に応じて独自の方針を織り交ぜて調整を行い、女子学生たちが将来に備えられるように心を砕いていたことを明らかにした。

(3) 2020年度刊行の論文「英国ケンブリッジ大学女子学寮と International Women's Day」では、ニューナム・カレッジをはじめとするケンブリッジ大学女子学寮がジェンダー格差を是正するために行っている数々の取り組みとその背景にある女子(高等)教育の理念を明らかにした。本論文には、筆者が2016年度にケンブリッジ大学で行ったリサーチの成果が含まれており、独自の経験に基づいた新たな知見が提供されている。

(4) 2021年度刊行の論文「自立自営への道 - 『泰西婦女風俗』とイギリスの女子教育」(『下田歌子と近代日本 - 良妻賢母論と女子教育の創出』勁草書房 所収)では、実践女子大学の学祖である下田歌子が19世紀末に欧米の女子教育視察に赴き、それによって得た知見を記した『泰西婦女風俗』を上記の研究結果と比較しながら読み解くことにより、日本の女子教育の先駆者である下田が、イギリスの女子教育と女性のキャリア形成から具体的にどのような影響を受けたのかを明らかにした。このような影響関係の解明はこれまでなされていない。当時のイギリスのみならず、日本の女子の教育・キャリア形成にまで研究の射程を広げることができたのは、大きな成果であった。今後の研究の展開を考えるうえでも重要な一歩となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 志渡岡 理恵	4. 巻 8
2. 論文標題 「歴史の現場からのレポート」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『女性とジェンダーの歴史』	6. 最初と最後の頁 9-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.50827/jwhn.8.0_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 志渡岡理恵	4. 巻 73
2. 論文標題 「ジャネット・ショウの植民地への旅」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『実践英文学』	6. 最初と最後の頁 35-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002207	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 志渡岡理恵	4. 巻 7
2. 論文標題 「英国ケンブリッジ大学女子学寮と International Women's Day」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所年報』	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 志渡岡理恵	4. 巻 72
2. 論文標題 「合理服、スポーツ、自転車 19世紀イギリスの女性解放運動」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『実践英文学』	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34388/1157.00002080	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 志渡岡理恵	4. 巻 62
2. 論文標題 「A Sweet Girl Graduate (1891) における教養教育の意義」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『実践女子大学文学部紀要』	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34388/1157.00002137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 2件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 志渡岡理恵
2. 発表標題 「A Journey through the Crimea to Constantinople における異国表象」
3. 学会等名 イギリス・ロマン派学会第 47 回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 志渡岡理恵
2. 発表標題 「自立自営への道 英国の少女小説・雑誌における女子教育をめぐる議論」
3. 学会等名 下田歌子記念女性総合研究所叢書 執筆者研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 志渡岡理恵
2. 発表標題 「英国ケンブリッジ大学女子学寮とInternational Women's Day」
3. 学会等名 第1回下田歌子記念女性総合研究所第二部門研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志渡岡理恵
2. 発表標題 「合理服、スポーツ、自転車 19世紀イギリスの女性解放運動」
3. 学会等名 実践女子学園創立120周年記念英文学科公開講座（シンポジウム）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 志渡岡理恵
2. 発表標題 「歴史の現場からのレポート 1840年以前に出版された女性の旅行記」
3. 学会等名 第33回イギリス女性史研究会（シンポジウム）（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 志渡岡理恵（広井多鶴子編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 360
3. 書名 『下田歌子と近代日本－良妻賢母論と女子教育の創出』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------